

使徒の働き10章 「異邦人にも与えられる聖霊」

1A 求道者への啓示 1-8

2A ペテロにあった壁 9-16

3A 御霊への従順 17-23

4A 神の御前に来るコルネリウス一家 24-33

5A 全ての人の主 34-43

6A 聖霊のバプテスマのしるし 44-48

本文

使徒の働き 10 章を開いてください。私たちは、これまで異邦人に対する神の救いのご計画の兆しを見てきました。ピリポがサマリア人に伝道を始め、そしてサウルが捕らえられて、彼が後に異邦人への使徒となります。そして 10 章は、ついに教会の指導者であるペテロに、神がこれ以上ない、明らかなしるしを伴わせて、異邦人にも救いを神がお与えになっていることを示されます。イエス様はペテロに、「わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。」と言われました(マタイ 16:19)。神の国の要になるご計画が明らかになる時に、ペテロがそこに置かれているということです。

前回の 9 章の学びにおいて、ペテロが既にエルサレムを離れて、巡回しているところを見ました。初めはリダで中風の人を癒やし、次にヤッファにドルカスという女弟子が死んでしまったのを生き返らせる奇跡を行いました。そうしてペテロはしばらくの間、ヤッファにある、皮なめし職人のシモンの家に滞在します。皮なめしは、獣の死体を取り扱いますから、それだけでもユダヤ人にとって汚れているとみなされている職業です。しかし、神が徐々に、ペテロが、ユダヤ人のしきたりに従えば論外ともいえる、異邦人の家に入るというところまで導かれます。

1A 求道者への啓示 1-8

¹さて、カイサリアにコルネリウスという名の人があった。イタリヤ隊という部隊の百人隊長であった。

カイサリアという町にコルネリウスという人がいました。カイサリアは、ローマのユダヤ属州の首都です。ヘロデが建てた町で、彼の天才的な建築技術が生かされて、半円形の劇場、競馬場、コンクリートの波止場など、驚くべき建造物が今も遺跡で残っています。他のローマの町のご多分に漏れず、偶像礼拝、富、また快樂が詰まった町です。しかし、ここに伝道者ピリポが既に定住しています。そして後に、パウロがここで幽閉されて、総督や王の前で弁明をします。そして、キリスト教が後に栄え、「教会史」という著作で有名な、エウセビオスという教会指導者が出ます。

ここは属州の首都なので、総督もここに住んでいました。ピラトもここからエルサレムに過越の祭

りに行きました。そこに、百人隊長コルネリウスも駐屯していたのです。ローマ軍はとても規律正しです。「イタリア隊」とありますが、一つの隊が 600 人です。6 人の百人隊長がいます。ですから、コルネリウスはその 6 人のうちの一人でした。

軍隊とか兵というと、私たちは横暴さをイメージします。確かに、福音書にも、バプテスマのヨハネが兵士に対して、市民からゆすり取らないように戒めています。けれども、百人の兵を統率する百人隊長は、有能な人が付いています。福音書では、百人隊長は信仰深さで特徴的です。使徒の働きを書いているルカは、カペナウムにいた百人隊長のことを描いています。彼もコルネリウスにとっても似ていて、ユダヤ国民を愛して、会堂を自費で建てたりしていました。彼のしもべが病に罹りましたが、イエス様が触りに行こうと向かうと、驚くべきことを言いました。「ルカ 7:7b-8・・・ただ、おことばを下さい。そうして私のしもべを癒やしてください。と申しますのは、私も権威の下に置かれている者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。」ことばにある権威を良く知っていました。指揮系統を良く知っていました。主から言われたことに従うというのは信仰の要ですから、百人隊長は信仰を持つことの本質が比較的、分かり易かったのかもしれない。

² 彼は敬虔な人で、家族全員とともに神を恐れ、民に多くの施しをし、いつも神に祈りをささげていた。

コルネリウスは、異邦人でありながら、ユダヤ人の神を敬っていました。「敬虔な人」とありますが、「神を恐れ」とあります。ローマには数々の神がありますが、それは汚れや不道徳が付きまといます。そういうものから離れ、天地万物を造られた、聖なる神を敬いたいと思う人たちのことです。ユダヤ教に改宗するまでは行きませんが、ユダヤ人の神を敬う人々です。それで、施しもユダヤの民に良く行っていました。また、神に祈りをいつも献げたとあります。神は以前、アブラハムに、「あなたを祝福するものを、わたしは祝福する」と言われましたが、まさにそのことが起こります。

それから、神を恐れているのが、「家族全員とともに」とありますね。あとで、聖霊のバプテスマを受けるのも、一家そろって受ける姿を見ます。私たちはとかく、個人の回心だけを見てしまいがちですが、聖書にはこのように、家族ごとの回心、集団の回心も見ることができます。世界宣教においても、部族の酋長が信じると、その部族全体が信じるということも見ます。

³ ある日の午後三時ごろ、彼は幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。その御使いは彼のところに来て、「コルネリウス」と呼びかけた。⁴ 彼は御使いを見つめていたが、恐ろしくなって言った。「主よ、何でしょうか。」すると御使いは言った。「あなたの祈りと施しは神の御前に上って、覚えられています。

ユダヤ人の祈りは、午前 9 時と午後 3 時があり、またその間の正午もあります。コルネリウスは、ユダヤ人の習慣にならって、午後三時頃祈っていました。彼はこれほど、神を追い求めていました。その彼に御使いが現れました。神は、ご自分を求めている人に真実であられます。前回は、エチオピアの宦官が真理を求めているので、神がピリポを遣わされました。今回は、ペテロを神が、その求道の心に応じて、遣わして下さるのです。

⁵ さあ今、ヤッファに人を遣わして、ペテロと呼ばれているシモンという人を招きなさい。⁶ その人は、シモンという皮なめし職人のところに泊まっています。その家は海辺にあります。」⁷ 御使いが彼にこう語って立ち去ると、コルネリウスはしもべたちのうち二人と、彼の側近の部下のうち敬虔な兵士一人を呼び、⁸ すべてのことを説明して、彼らをヤッファに遣わした。

コルネリウスは、ペテロに人を遣わすことについて、御使いの指示にきちんと従いました。御使いのことを、「主」と呼んでいます。彼は、天からの啓示に対して畏敬の念を持ち、それに従順に従う準備をしていたのです。そして遣わしたのは二人の僕ですが、二人を護衛するために兵士一人を選びました。興味深いことも、その兵士もまた神を敬う人でありました。

2A ペテロにあった壁 9-16

⁹ 翌日、この人たちが旅を続けて、町の近くまで来たころ、ペテロは祈るために屋上に上った。昼の十二時ごろであった。

カイサリアからヤッファまでは、約 50 キロの道のりです。徒歩で動いているので、やはり一日近くの時間がかかるでしょう。ペテロのほうは、先ほど話した日に三度の祈りの中で、正午の祈りを献げている最中でした。「屋上に上った」とありますが、平らな屋根です。以前、ガリラヤで中風の人を担ぎこんだ人々が、屋根から降ろしたという話がありましたね。平らだからこそ、そのようなことができます。

¹⁰ 彼は空腹を覚え、何か食べたいと思った。ところが、人々が食事の用意をしているうちに、彼は夢心地になった。¹¹ すると天が開け、大きな敷布のような入れ物が、四隅をつるされて地上に降りて来るのが見えた。

主は、ペテロの空腹をお用いになられて、幻をお見せになりました。この敷布は、船の帆のような大きなものだそうです。

¹² その中には、あらゆる四つ足の動物、地を這うもの、空の鳥がいた。¹³ そして彼に、「ペテロよ、立ち上がり、屠って食べなさい」という声が聞こえた。¹⁴ しかし、ペテロは言った。「主よ、そんなことはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことはありません。」

これは、モーセの律法のレビ記 11 章にある、食物規定に触れる箇所です。食べてよいのは、反芻する四つ足動物で、反芻し、蹄が分かれて、割れているものです。牛や羊はそうでしょう。けれども、豚は汚れていますね。反芻しないからです。犬も汚れています、蹄が分かれていないからです。そして地を這うものは、汚れているとされます。蛇であるとか、モグラもそうです。

そのようなものが見えて、屠って食べなさいと命じられるのですが、ペテロは、とても矛盾したことを言います。「主よ、そんなことはできません。」主よ、と呼んでいるのに、「そんなことはできない」と、歯向かっているからです。主と呼ぶのであれば、「はい、わかりました」という返答しかできないはずですが、しかし、できないと言っているのです。その理由が、そのような清くない物、汚れた物を食べたことがないということです。習慣というものが、実に、主ご自身の命令を蹴散らすほどの力を持っているということです。午前礼拝で学びましたが、主の命令は、聞いてそれに応答するという、生きた信仰の中で守られていくものです。それを、自分を守るための壁にしてしまうのです。そうやって人々の間に壁が出来てきます。

¹⁵ すると、もう一度、声が聞こえた。「神がきよめた物を、あなたがきよくないと言ってはならない。」

¹⁶ このようなことが三回あってから、すぐにその入れ物は天に引き上げられた。

主が語られているのは、神の主権です。神が清めたのだから、清くないということはあり得ないのだということです。神の権威を認めなさいということです。その確認のため、三度も主は同じものをお見せになりました。

3A 御霊への従順 17-23

¹⁷ ペテロが、今見た幻はいったいどういうことだろうか、と一人で思い惑っていると、なんと、コルネリウスから遣わされた人たちがシモンの家を探し当てて、その門口に立ち、¹⁸ 声をかけて、「ペテロと呼ばれているシモンはここに泊まっていますか」と尋ねていた。

シモンの家は海辺にあるとしか聞いていなかったのだから、探し歩いたのでしょう。ちょうど、その直前に、ペテロは幻のことで思い惑っていました。

¹⁹ ペテロは幻について思い巡らしていたが、御霊が彼に言われた。「見なさい。三人の人があなたを訪ねて来ています。²⁰ さあ、下に降りて行き、ためらわずに彼らと一緒に行きなさい。わたしが彼らを遣わしたのです。」²¹ そこでペテロは、その人たちのところに降りて行って、言った。「あなたがたが探しているのは、この私です。どんなご用でおいでになったのですか。」

今度は、ペテロは従順に従っています。御霊が、「ためらわずに彼らと一緒に行きなさい」と言われたのです。御霊が言われたからという理由だけで、行動に移しました。午前礼拝でも話しました

が、私たちがどれだけ、「主が言われたから」という理由だけで行動しているでしょうか？水に一度も潜ったことのない方が、命令だからというだけの理由でバプテスマを受けた話をしましたが、主がただ言われたという理由だけで、物事を行っているでしょうか？

²² すると、彼らは言った。「正しい人で、神を恐れ、ユダヤの民全体に評判が良い百人隊長コルネリウスが、あなたを自分の家に招いて、あなたから話を聞くようにと、聖なる御使いから示されました。」²³ それでペテロは、彼らを迎え入れて泊ませた。翌日、ペテロは立って、彼らと一緒に出かけた。ヤツファの兄弟たちも数人同行した。

彼らの話を聞いて、ペテロは彼らを泊ませました。ここで大きな壁が崩れています。ユダヤ人の家の中に、異邦人が入ったのです。これは、タブーです。あってはならないことです。けれどもすでに、皮なめし職人の家ですから、汚れていると言えばそうです。異邦人はますますハードルが高かったのです。

そして、翌日、ペテロは立ってでかけますが、兄弟たちも数人同行しています。ペテロは賢いです。前例のないことをこれから行おうとするのに当たって、証言をしてくれる人たちが必要だったのでしょう。

4A 神の御前に来るコルネリウス一家 24-33

²⁴ そして次の日、ペテロはカイサリアに着いた。コルネリウスは、親族や親しい友人たちを呼び集めて、彼らを待っていた。

一家そろって神を敬っているコルネリウスは、親族や親しい友人までも呼び集めています。

²⁵ ペテロが着くと、コルネリウスは迎えに出て、足もとにひれ伏して拝んだ。²⁶ するとペテロは彼を起こして、「お立ちください。私も同じ人間です」と言った。

コルネリウスは、異邦人です。被造物を拝むことは、簡単に行いますね。けれども、異邦人だから、神ではなく神の器を拝んでしまうのではありません。天使の輝くさまを見て、天において、使徒ヨハネが天使を礼拝してしまうようになります。「黙 19:10 私は御使いの足もとにひれ伏して、礼拝しようとした。すると、御使いは私に言った。「いけません。私はあなたや、イエスの証しを堅く保っている、あなたの兄弟たちと同じしもべです。神を礼拝しなさい。イエスの証しは預言の霊なのです。」主にご利用されると、人々はどうしても、主ご自身ではなく、器そのものに注目します。そして器にしか過ぎないものが、まるで自分の功績であるかのように、神の栄光を自分のものにしようとしてしまうのです。ペテロは、拒みました。

²⁷ そして、コルネリウスとことばを交わしながら家に入り、多くの人が集まっているのを見て、²⁸ その人たちにこう言った。「ご存じのとおり、ユダヤ人には、外国人と交わったり、外国人を訪問したりすることは許されていません。ところが、神は私に、どんな人のことも、きよくない者であるとか汚れた者であるとか言ってはならないことを、示してくださいました。

ペテロは、先に異邦人の遣わされた者たちを中に迎え入れましたが、ここではついに、自分自身が異邦人の家の中に入りました。自分の家に迎え入れるよりも、もっとやっちはいけないことです。ペテロも、もしことばを交わしていなかったら、意識して敷居をまたぐことはできなかったかもしれません。けれども、彼はそれを行いました。三度の幻と、また御霊の促しによって、ようやく、その幻の意味を悟ったからです。その汚れた動物を汚れていると言っちはいけないと主が言われたのは、異邦人全般のことだったからです。主は、ペテロにある、またユダヤ人たちにある偏見を取り除くべく、働きかけておられたのです。

²⁹ それで、お招きを受けたとき、ためらうことなく来たのです。そこでお尋ねしますが、あなたがたは、どういうわけで私をお招きになったのですか。」

遣わされた者たちから聞いていましたが、今ここで、本人に確認する質問をしています。

³⁰ すると、コルネリウスが言った。「四日前のこの時刻に、私が家で午後三時の祈りをしていますと、なんと、輝いた衣を着た人が私の前に立って、³¹ こう言いました。『コルネリウス。あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前に覚えられています。³² だから、ヤッファに人を送って、ペテロと呼ばれるシモンを招きなさい。この人は海辺にある、皮なめし職人のシモンの家に泊まっています。』³³ それで、私はすぐにあなたのところへ人を送ったのです。ようこそおいでくださいました。今、私たちはみな、主があなたにお命じになったすべてのことを伺おうとして、神の御前に出ています。」

すばらしいですね、「主があなたにお命じになったすべてのことを伺おうとして、神の御前に出ています」と言っています。百人隊長らしい、権威ある者からの命令、指令を待つ姿です。

5A 全ての人の主 34-43

³⁴ そこで、ペテロは口を開いてこう言った。「これで私は、はっきり分かりました。神はえこひいきをする方ではなく、³⁵ どこの国の人であっても、神を恐れ、正義を行う人は、神に受け入れられます。

前回の学びで、サウロが、天からの光によって、すぐに異邦人に対する神のご計画も悟りましたが、ペテロの場合は、三度の天からの幻、御霊の促し、コルネリウスの説明、これらによってついに、はっきりと分かることができます。主はそれぞれ、私たちが神のご計画の全体を知るために、

いろいろな印やヒントを与えられてくださいます。

³⁶ 神は、イスラエルの子らにみことばを送り、イエス・キリストによって平和の福音を宣べ伝えられました。このイエス・キリストはすべての人の主です。

神は、順番として、イスラエルの子らにみことばを送られました。彼らは今も、選びの民であり、その召命は変わりません。しかし、そこに異邦人が、キリストにあって加えられたのです。平和の福音とペテロがここで呼んでいるのは、ユダヤ人と異邦人の両者が一致できるからです。そして、ペテロは、「すべての人の主です」と言っています。ユダヤ人の神がいて、異邦人の神がいたら、二人の神になってしまいます。けれども、一人の神なのです。ユダヤ人にとっての神は、異邦人にとっての神でもあるのです。

³⁷ あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事柄をご存じです。

「ご存じです」と言っているのは、ユダヤ人の間で大きく広がった動きについて、神を敬っているコルネリウスであれば、知っていると見たのです。

³⁸ それは、ナザレのイエスのことです。神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人たちをみな癒やされました。それは神がイエスとともにおられたからです。

ガリラヤにおいては、バプテスマによって聖霊がイエス様に下られて、それ以上、聖霊に満たされて力ある働きを行われました。

³⁹ 私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムで行われた、すべてのことの証人です。人々はこのイエスを木にかけて殺しましたが、⁴⁰ 神はこの方を三日目によみがえらせ、現れさせてくださいました。

イエス様はガリラヤから、ユダヤ地方、それからエルサレムへと向かわれました。ペテロは、その時の証人なのだと言っています。そして十字架に付けられ、三日目に神がよみがえらせてくださったことも目撃しています。

⁴¹ 民全体ではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちに現れたのです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられた後、一緒に食べたり飲んだりしました。

そうです、イエス様の復活は、限られた人たちだけが目撃しました。神によって選ばれた人たちのみが、その復活を見て、証人となるような人々のみに現れました。たとえ見たとしても、信じないでしょう。ラザロの復活を見たのに、信じなかった人々もいます。そしてその復活は、肉体をともしなう復活であり、幽霊でもなんでもないことを示すために、イエス様と一緒に食べたり、飲んだりしました。

⁴² そしてイエスは、ご自分が、生きている者と死んだ者のさばき主として神が定めた方であることを、人々に宣べ伝え、証しするように、私たちに命じられました。⁴³ 預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられると、証しています。」

ペテロも他の使徒も明確に、主イエスがよみがえられ、神の右の座に着かれ、それから人々を裁かれるために戻って来られることを教えています。神が裁かれるから、悔い改めて、罪の赦しを得なさいという使信なのです。誤った福音が伝えられていて、神の裁きを語ることは愛に反するとして、裁きのあることを語ろうとしない傾向がありますが、それは偽りの福音です。

6A 聖霊のバプテスマのしるし 44-48

⁴⁴ ペテロがなおもこれらのことを話し続けていると、みことばを聞いていたすべての人々に、聖霊が下った。

御言葉を聞いて、聖霊が下っています。何か行いをしたから聖霊が下ったのではなく、信じたから下ったのです。信仰をもって御言葉を聞く中で、御霊が働いてくださいます。「ガラ 3:2b あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。」もちろん、信仰を持って聞いたからです。

⁴⁵ 割礼を受けている信者で、ペテロと一緒に来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたことに驚いた。

そうです、ペテロも驚いていたことでしょう。ペテロは、聖霊のバプテスマの約束で、こう言っていました。「2:39 この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」しかし、まさか、その遠くにいるすべての人々に、異邦人が含まれているとは思わなかったのでしょうか。そう語っていながら、離散しているユダヤ人ぐらいにしか考えていなかったと思います。

⁴⁶ 彼らが異言を語り、神を賛美するのを聞いたからである。するとペテロは言った。

聖霊が下られた時に、異言であるとか、何らかの目に見えるしるしが伴っています。これまで、サ

マリア人の姿、そして後にエペソの信者の姿を見ますが、異言を語ったり、預言を語ったりしています。異言が必ず伴うという人々がありますが、私は必ずしも異言だとは限らないと思います。異言を皆が語るわけではないと、コリント第一 14 章でパウロが教えているからです。ペテロとしては、外国の言葉で、神を賛美しているのは、まさに五旬節の出来事だと思い起こしていたことでしょう。

47「この人たちが水でバプテスマを受けるのを、だれが妨げることができるでしょうか。私たちと同じように聖霊を受けたのですから。」⁴⁸ ペテロはコルネリウスたちに命じて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた。それから、彼らはペテロに願って、何日か滞在してもらった。

ペテロは、五旬節の時に、水のバプテスマを授けて、彼らが悔い改めによって、罪が赦され、それから聖霊の賜物が与えられることを話しました。ここではその反対です。水のバプテスマを受ける前に彼らは、信仰によって御言葉を聞いていたのでその場で聖霊のバプテスマを受けたのです。それで、水のバプテスマを受けない理由はないとしたのです。これまで、ユダヤ人の間だけで行っていたバプテスマは、異邦人にまで広がっていることに、彼ら自身が驚いています。

そしてコルネリウス一家が、何日かいてほしいと願って、滞在して、それからエルサレムに行きます。彼らにとって異邦人に御霊が及ぶことは、思いつきもしなかったことなのです。神は私たちに驚かせる方です。そうやって、ご自身が人の知恵と力をはるかに超える神であることを証しています。